事業名　伝統産業を活用した地域活性化を考えるプログラム in 京都山科清水焼団地

本事業は、京都の伝統産業である京焼・清水焼の振興を目指し、大学生がフィールドワークを通じて伝統産業の今後を検討するものである。伝統産業の衰退が地域経済や文化継承に影響を及ぼしており、京都市の計画でも課題として指摘されている。本学では、2000 年代から山科地域との連携を通じて、清水焼団地協同組合と協力し、伝統産業の活性化する活動を行ってきたが、新型コロナウイルスの影響で活動が制限され、組合や職人との連携が弱まっている。そこで、経済・経営・工学部の学生を募り、伝統産業関係者と連携を深め、新しい取り組みの基盤を築くことを目指し、組合と大学の連携関係を再構築し、伝統産業の新たなあり方について検討を行った。

具体的な事業内容として、地域連携 PBL の授業において、職人や問屋における講演・ヒアリングや、観光資源として活用方法の実践的な事例調査として轆轤や絵付けなどの体験を行い、今後の清水焼団地のあり方について提案を行った。授業を終えた学生たちは、清水焼に関する様々な側面に触れ、その魅力に共感したことや、手作りの温かみや同じ柄でも全く同じものが存在しないことに対する感心したことなど伝統産業に実際にかかわらなければわからない体験を得る機会となっていた。一方で、清水焼団地には過疎化や低い認知度、アクセスの悪さなどの問題が浮き彫りになり、特に、団地が普通の住宅として認識されてしまうことなどの課題を指摘していた。改善策として、SNS を活用した情報発信やイベントの開催、ターゲット層の絞り込みなどが挙げられ、これらの施策が清水焼団地の活性化につながる可能性にいて提案を行った。

また、地域連携 PBL の授業後、有志でさらなる実践的な伝統産業の振興を目指し清水焼団地と連携を行った。毎年、清水焼団地では 10 月 21 日、23 日に清水焼の活性化を図る陶器市が開催されており、この実行委員会から、子ども向けに陶器を楽しむ企画を提案してほしいという依頼があった。それを受けて、受講生の有志が清水焼に親しむ機会を提供するために、清水焼スーパーボールすくいと清水焼のコイン落としゲームを企画・実施した。

スーパーボールすくいでは、清水焼の茶碗を器にしてスーパーボールを入れる工夫を行った。子どもたちは伝統産業に触れることの少ないようで、楽しそうにゲームに参加していた。親たちからも、清水焼のお茶碗を手に取る機会が新鮮で良い経験であったと好評であった。

コインゲームでは、水に沈んだ清水焼の器にコインを入れる工夫を行った。子ども向けの企画あったが、多くの海外観光客も楽しんで何度も挑戦していた。参加者への記念品として、清水焼の箸置きの首飾りを贈り、これを身に着けた子どもたちが会場内を歩くことで、清水焼イベントの雰囲気づくりもおこなった。

上記の企画を運営するなかで、運営体制の人手不足に対応するため、大学公認の学生団体であるまちづくり研究会のメンバーも協力し、連携の幅を広げることができた。

本事業を通じて、清水焼団地との連携を強化し、地域の伝統産業の活性化のつながり強化と大学生の地域にかかわる機会をつくることができた。PBL 授業を継続的に実施し、授業後も活動したい学生の受け皿となる清水焼を活性化する団体を作り、持続的な取り組みを行うことが不可欠であ

る。具体的には、清水焼団地との連携をさらに強化し、地域の課題に対する解決策を探求するプロジェクトを展開していき、これまでの活動や成果を次世代の学生に伝えるために、OBOG が後輩たちに指導や支援を行い、プロジェクトの継続的な展開を促進していくことが必要である。

さらに、地域の関係者や団体との協力を強化し、清水焼団地の課題解決に向けた包括的な取り組みを推進していくことも重要である。継続性のある PBL 授業として、地域経済や文化の持続的な発展を目指し、清水焼団地の活性化に向けた具体的な施策を提案し、実行に移すことで、地域の魅力向上や観光資源の活用に継続性をもたせることができ、単年度のプロジェクトにはない取り組みとすることもできる。今後も、PBL 授業内で地域住民や観光客との交流を促進するイベントや体験プログラムを展開し、地域コミュニティの活性化を図っていきたい。

このような取り組みにより、清水焼団地との連携をより強固なものとし、地域の伝統産業の振興に寄与していき、学生の地域貢献意識の向上や地域社会への参画意欲の高揚にもつながり、地域と大学の持続的なパートナーシップを築いていくことが期待される。